

令和6年度 新富町立富田中学校 学校評価書

教育目標「豊かな心、すぐれた知性、たくましい体を備え、粘り強さと実践力のある生徒の育成」				4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する							
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート		学校の自己評価			学校運営協議会		
				生徒 保護者	教師	成果(○)と課題(●)	評価	評価	所見		
地域どもある学校	1 コミュニティ・スクールの推進	ア:地域みんなが顔見知り イ:子どもが育てば地域が育つ ウ:学校いきいき 地域ぐわく	○ 教師との熟議を計画し、情報交換・共有を図る。 ○ 学校と地域が交流できる企画立案。	87 %	83 %	○ オープンスクールの実施。小学6年生の参加を促していきたい。 ● 参加者は多くないが、継続することで地域に伝えたい。	3	4	○ コミスクの推進の方策・手立てが動き出せば、変わってくる。 ● 地域との連携したことを発信するしくみづくり（学校運営協議会の改善点の1にもなる。役割） ● 小学校との連携（運動会等）をしていく必要がある。（課題もあるので、時間をかけて）		
	2 地域資源(ひと・もの・こと)の把握及び積極的な活用	ア:地域資源の把握 イ:地域人材の活用	○ 地域の組織（児湯市民会など）と連携して、どのような人材があるのか把握をしたり、地域の方から講話をいたしたり、実際に体験したりする活動を行う。 ○ 講話や活動支援が可能な場所、時間設定と人材の確保。			○ 町の連携部署の確認ができ、連携がしやすくなった。各学年での活用がされている。 ● 地域に住んでいる方とのつながりを深めたい。					
	3 積極的な情報発信	ア:生徒の頑張りの様子を保護者・地域に広める	○ 学級通信や学校新聞、本校WEBページなどをを利用して学校の様子を発信する。 ○ 諸活動の中で発信する機会を考える。			○ 通信やWebによる発信は継続し効果を上げている。 ● 防災無線で学校の行事など紹介し関心をもってもらう。					
	4 校区内小学校・特別支援学校との連携	ア:小中連携の授業研究会、授業参観 イ:学業指導の中小合同会議、交流事業	○ 小中合同研修で意見交換会を行う。 ○ 講話や活動支援が可能な場所、時間設定と人材の確保			○ 小学校の実態や実践を知る良い機会になった。 ● 小学校との継続的が連携をしていくと良い。					
豊かな心の育成	1 人権・同和教育の推進	ア:全教育活動を通して、人権認識の深化を図り、ノーマライゼーションの理念に基づき人権感覚を磨く	○ 人権集会の実施 ○ 人権週間に人権意識向上の啓発の実施。	90 %	90 %	○ 人権集会を実施し、人権意識の向上を図った。 ● 人権意識に欠ける発言をしている生徒が見られる。	2	3	○ 夢と希望を語る人が増えると子供たちも未来に対して希望が持てるようになるのは、 ○ 地域の子供たちには、心豊かに逞しく育ってほしいと願っています。		
	2 生活三原則の指導の徹底	ア:「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の指導の具現化	○ 2分前行動、1分前着席、チャイム黙想の徹底をし、授業を受ける雰囲気を整える。 ○ 全校オリエンテーションでの全体指導、休み時間等の見守り。 ○ 活動に無理のない時間設定、時間割設定を行う。			○ 学習委員会や学年プロ委の活動により、1分前着席が概ねできている。 ● 引き続き見守りを休み時間や昼休みに行う。					
	3 是々非々の姿勢で判断できる集団づくり	ア:ルールの共有と人間関係の構築 イ:行事等を通じた連帯感や達成感 ウ:教師自らが「夢と希望」を語る場づくり	○ 生活心得を元にした常時指導。 ○ Q-Uアンケートの実施及び活用。 ○ 望ましい集団生活の在り方の周知。			○ 概ねルールを守ることができている。 ● 生活心得の見直しを行っていく必要がある。					
	4 問題行動やいじめ、不登校への対応	ア:組織的な対応と関係機関との連携 イ:いじめ・不登校の未然防止と早期発見	○ 週1回の生徒理解による情報共有 ○ 月1回のいじめに関するアンケートの実施と対応、学期1回の教育相談の実施			○ 週1回の生徒理解と月1回のいじめアンケート実施。 ● 問題行動等に継続して対応していく。					
	5 道徳教育の充実	ア:道徳の時間の指導の工夫	○ 授業時間の確保と関連行事の支援			○ 資料等を共有し、授業改善を図った。 ● 道徳的実践につながる指導を工夫していく。					
健やかな体の育成	1 命や健康を大切にする教育の推進	ア:防災教育の充実及び交通指導の徹底 イ:薬物乱用防止教室、性に関する教育の実施 ウ:給食指導の充実	○ 年3回の避難訓練の実施、交通安全教室・自転車生集会の実施。 ○ 年1回の薬物乱用防止教室の実施、外部指導者による各学年1回の性に関する教育の実施、各学年、年1回のがん教室の実施。 ○ 教員・保健委員への外部指導による救急処置の訓練。 ○ 毎日の配膳室での指導・管理。	82 %	74 %	○ 個人で地震津波想定の避難経路について考えさせた。また、外部講師を招き、新富町を取り巻く防災について講話してもらいました。 ● 教員対象の救急処置訓練は行えていない。来年度4月に実施できるよう計画を検討。	3	3	● 生徒と大人（教師・保護者）の認識のズレがあるので、生徒への指導は継続・充実を図る。 ● 防災講話等は、地域の方と一緒に聞けるとよいのでは、 ● こんな時代だからこそ、子供たちの努力と行いをしっかりと褒めて、信じ合えることの大切さを伝えたい。		
	2 体力向上をめざす保健体育授業の実施	ア:体力向上プランに基づいた保健体育授業の充実	○ 単元のつながりを持たせた準備運動やウォーミングアップの実施			○ 実施できている。 ● 落ち込んだ体力の補強運動が十分ではなかった。					
	3 心と体を鍛える部活動の推進	ア:責任感や連帯感を養う部活動指導の実施 イ:生徒一人一人に応じた支援を通じた技術の向上	○ 2ヶ月に1回のキャプテン会の実施			○ 推戴式での指導は十分に行えた。 ● リーダーとしての心構えについて指導していく。					
学びに向かう力の育成	1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	ア:キャリア教育の視点を踏まえた教科指導の充実 イ:ふるさと学習を通じた「夢や希望」の具現化	○ 体験活動や講話の実施支援	73 %	60 %	○ キャリア教育に関する講話等を行った。 ○ 職場体験学習に変わる職業講話、体験活動の計画 ● 学活の時間等を使って進路学習をする必要がある。	2	3	○ キャリア教育については、熟議もあったので、これから充実していくと考えられる。 ○ 熟議での職場体験についての協議で先生方には苦労が山積のことと思いますが、人との繋がりの中での実りある学習ができるようお祈りいたします。		
	2 授業の充実+ICTの積極的活用	ア:一生使える教育技術を磨く イ:「美しい字」「わかりやすい発音・話術」 ウ:個の応じた指導、指導方法工夫改善の充実及び学校支援ボランティアとの連携 エ:問題にきづく力、問う力を育てる	○ スマイルネクストを利用して、個別のレベルで学習する。 ○ ICT ハード面での支援や業者との連携 ○ しんとみスタイルに基づいた授業実践（授業マネジメントとICTを活用した教科指導の工夫）			○ 調べ学習やアンケートで使用している。 ○ ICT の利用が定着してきた。 ● ドリルの使用時間等に関わるドリルの必要性					
	3 特別支援教育の充実（合理的配慮）	ア:特別な支援を要する生徒への支援体制の整備 イ:保護者及び関係機関との連携	○ 事例検討会の実施による共通理解 ○ SC、SSW等と連携した支援。 ○ 保育所等訪問支援、町特別支援Coとの連携。			○ ハートフル委員会を実施し、共通理解を図った。 ○ 保育所等支援訪問、町特別支援 Co、訪問看護、SC、SSWと連携し、支援にあたっている。					